

《目次》

東日本大震災被災地への医療支援派遣報告

【診療科・部門紹介】

- ▶▶ 小児科
- ▶▶ 手術部
- ▶▶ 消化器内科
- ▶▶ 糖尿病・内分泌内科

- 医科診療案内
- 錦江湾魚ごよみ
- 病院再開発 新病棟平面プランのご紹介

理念

鹿児島大学病院は、21世紀に輝くヒューマン・トータルケア病院の構築を目指し、医療人の育成及び医学・歯学の研究の充実と発展に貢献すると共に、常に患者さん本位の原点に立った、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 患者さんの権利を尊重し、安心して安全な納得のいく治療を心がけます。
2. 質の高い医療、先進的医療の充実を図り、地域の中核的医療機関として貢献します。
3. 教育・研修病院として、地域の医療機関との連携を図り、人間性豊かな使命感にあふれる医療人を育成します。
4. 診療を通じてわが国の医学・歯学の研究を推進し、医学・歯学及び医療の国際貢献を目指します。
5. 安全で効率の高い病院運営体制を確立します。

患者さんの権利と責務

《患者さんの権利》

1. 誰でも良質な医療を公平に受ける権利があります。
2. 人の尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。
3. 医学的な状態、診断、処置その他の個人情報保護されます。
4. 治療・検査の方法、薬の内容等について十分な情報と説明を受け、理解した後、同意・拒否を選択する権利があります。
5. 診療録等に記録された自己の診療内容について、本院の規則により、情報の提供を受ける権利があります。

《患者さんの責務》

1. 医療従事者が最善かつ適切な診療を行うために、自身の健康状態に関する情報をできるだけ正確に伝える責務があります。
2. すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするために、院内の医療の妨げとならないように協力する責務があります。

東日本大震災被災地への歯科医療従事者の医療支援派遣報告

鹿児島大学病院では7月17日から23日にかけて、東日本大震災被災地の宮城県に歯科医療支援チームを派遣しました。今回の医療支援で派遣された鹿児島大学病院職員2名の活動報告をご紹介します。

五月女 さき子

発達系歯科センター
口腔保健科
歯科医師



南三陸町の被災状況



避難所での歯科処置

7月17日から23日まで、鹿児島大学病院歯科医療支援チームとして、宮城県南三陸町の避難所、仮設住宅や施設を巡回し歯科治療と口腔保健活動に従事してきました。震災から4カ月が経過し緊急的歯科需要が一段落した時期の派遣でしたので、私達の活動は被災された方々のむし歯や歯周病、口の細菌が原因となり免疫力の低下した時に起こりやすい誤嚥性肺炎などを予防する口の衛生指導に重点が置かれました。指導に入る前に私達は被災された方々のお話を聞くことから始め、一人ひとりの口の中の状態に合わせた清掃用具の使い方や誤嚥防止のための口まわりの筋肉のトレーニングの仕方などを指導しました。必要に応じて簡単な義歯の調整なども行いました。下の写真は避難所で舌に当たる歯の研磨を行っているところです。また現地の情報に乏しい私達でしたが、地元の歯科衛生士から避難所の状況や被災された方の情報等をいただき円滑に活動することができました。災害医療支援派遣は終了しましたが、継続した後方支援と一日も早い復興をお祈り致します。

鉛山光世

臨床技術部歯科衛生部門
歯科衛生士



宮城県の南三陸町で歯科医療支援活動をしてまいりました。歯科衛生士として被災者の肺炎予防、お口の健康を支援する目的で活動してきたので報告させていただきます。

歯科医療支援は一般的な歯科治療ではなく、お口のお手入れ(口腔ケア)や入れ歯の調整などが求められていました。歯科医師、地元の歯科衛生士のコーディネーターの方と一緒に仮設住宅、避難所、介護施設等を回りました。介護施設では寝たきりの入所者の口腔ケアをしてきましたが、震災後に歯科医療支援が介入したことにより、職員の入所者に対する口腔ケアの意識が高くなったと言われ、この支援活動に携われたことをうれしく思いました。避難所、仮設住宅では被災者の方々に色々なお話を伺いながら口腔ケアを行いました。大変な思いをしながらも皆さん前向きに力強く生活されていました。

災害が起きた時は地元のコーディネーターの役割がとても大きく、被災地の状況、避難所、不足物資の確認、医療支援者と被災者の掛け橋等たくさんの役割があり今回学んできました。今後も自分にできる支援活動をしていきたいと思います。

こどもたちをサポートする病棟保育士

鹿児島大学病院では、さまざまな病気を持ったこどもが入院し、病気と闘っています。比較的長期に入院する必要があり、病棟は生活の場と言えるでしょう。小学生、中学生のために、桜丘養護学校から先生が来られ、院内学級が開かれています。院内学級では1クラス当たり12名の生徒数なので、きめ細やかな指導を受けられます。

こんな病棟の中でひとときわ忙しくしているスタッフがひとりいます。大きなカバンに、絵本やおもちゃ、手作りの仕掛けを入れて、病室やプレイルームで、こどもたちと遊ぶ保育士です。当院では2010年7月から待望の専属の病棟保育士が活躍しています。「こどもが少しでも癒され、そのこどもがやりたい遊びができるようにサポートする」ことが保育士の目標で、「治療のあとでも、保育士さんと一緒に遊ぶと、こどもが笑顔になるし、私も休まり、嬉しいです。」とお母さんはおっしゃいます。つらいことが多い病院生活の明るい面を支える貴重な仕事です。保育士の仲間が増えて、こどもたちの笑顔がもつともつと見られることをみんなが望んでいます。



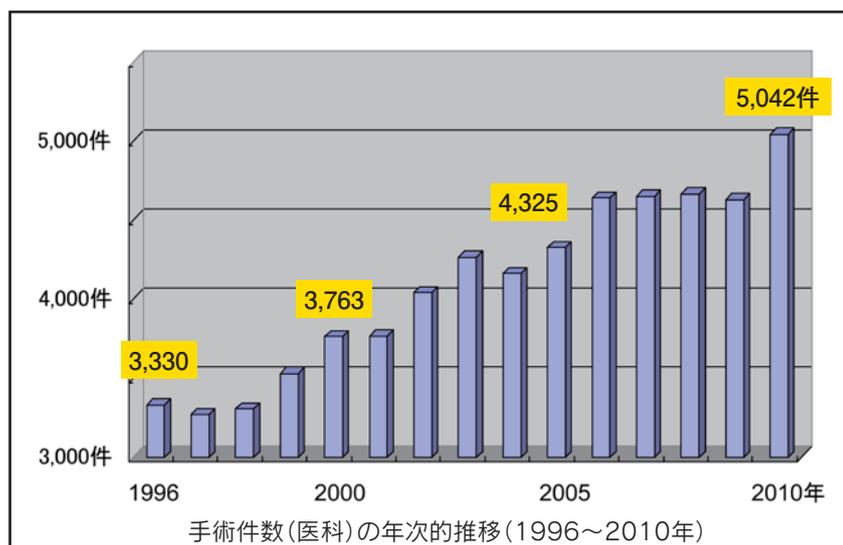
小児科

安全で最先端の手術を支援する

当院では平成19年に病院再開発が始まり、現在、第Ⅲ期の新病棟の増築に取り掛かっています。再開発スタートのⅠ～Ⅱ期として、手術部は平成22年9月までに全面的に増改築されました。

新しい手術部には、18の手術室があり、それぞれ、安全に使いやすい十分な広さを確保しています。ピーク時には15～16件の手術を同時並行で実施していますが、まだ、緊急手術用の手術室を確保する余裕があります。鏡視下手術や大動脈ステント挿入手術など、各科の最先端手術に対応できる専用の設備が充実し、なかでも術中MRI撮影装置を備えた手術室は西日本で初めてのものです。現在、手術を受けられる患者さんの多くはご家族に付き添われて歩いて手術室へ来られます。入り口のエントランスホールには教育学部桶田洋明准教授の絵画「森の光彩」が掲示され、患者さんやご家族、職員の心を癒してくれます。手術部には病院の中で最も多い50名の看護師が配置されています。各科の様々な手術が安全に、予定通りに実施され、患者さんやご家族に安心して頂けるよう、専門的な知識と技術を身につける努力を続けています。前日には手術を担当する麻酔科医や看護師が術前訪問に伺います。不安なことや疑問はお気軽におたずね下さい。

手術部



治験実績のご紹介

消化器内科では食道・胃・小腸・大腸などの消化管の他に、肝臓・胆嚢・膵臓などの主に腹腔内臓器を幅広く診療対象としています。これまで、光学医療診療部や肝疾患相談センターの活動をご紹介してきましたが、今回は当科で行っている治験の実績をご紹介します。

治験とは「くすりの候補」の安全性と有効性を確認し、医薬品として国に承認されるために行う臨床試験で、患者さんの協力が不可欠です。高度先進医療を提供する大学病院は、治験の実施機関として重要な役割を担っており、消化器内科でも患者さんに協力をお願いして、積極的に治験を実施しています。

当科では、C型肝炎に対する抗ウイルス療法をはじめとして、肝癌や炎症性腸疾患を対象に、様々な治験を行っています。過去5年間に、のべ71人の患者さんから同意をいただき、その内48人の方に実際に治験薬の投与を行ってきました。全国的に限られた症例数で行うものですので、参加していただく人数に制限がありますが、現在進行中の治験、今後予定されている治験もありますので、詳しく知りたい方は消化器内科までご相談ください。

<初診受付>月・木(8:30~11:00)、 TEL 099-275-5731

消化器内科

過去5年間に消化器内科で行った治験

対象疾患	治験相	症例数	
		同意取得	投与開始
B型慢性肝炎	第Ⅲ相	6	5
C型慢性肝炎	第Ⅱ相	7	4
	第Ⅱ相	1	1
	第Ⅱ相	2	2
	第Ⅲ相	13	9
	第Ⅲ相	25	15
	第Ⅲ相	登録中	登録中
	第Ⅳ相	2	2
肝硬変	第Ⅱ相	1	0
	第Ⅲ相	1	0
C型肝炎硬変	第Ⅲ相	2	1
	第Ⅲ相	1	1
肝癌	第Ⅱ相	1	1
	第Ⅱ相	1	1
	第Ⅲ相	1	1
潰瘍性大腸炎	第Ⅱ/Ⅲ相	1	1
クローン病	第Ⅱ相	4	2
	第Ⅱ相	2	2

糖尿病をはじめ下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎などの内分泌疾患を扱う

糖尿病・内分泌内科

糖尿病・内分泌内科は、糖尿病および下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎などの内分泌疾患を扱う診療科です。

糖尿病は自覚症状がほとんどないため放置する方もいますが、失明、腎機能障害、痺れや立ち眩みなどの神経障害の合併症を引き起こすため、きちんとコントロールすることが大切です。また、糖尿病は心筋梗塞や脳梗塞などの動脈硬化も進行させます。そのため食事療法、運動療法を行い、必要なら内服薬や注射薬を使用して良好なコントロールを目指します。

最近、糖尿病治療薬として新薬(インクレチン関連薬)が登場しました。DPP-4阻害薬やGLP-1受容体作動薬がそれで、前者は経口薬、後者は注射製剤です。インクレチンとは、食後の血糖値が上昇しそうなときに分泌され、インスリン(血糖を低下させるホルモン)の分泌を増やしたり、グルカゴン(血糖を上昇させるホルモン)の分泌を抑えたりして、結果として血糖値の上昇を抑える働きがあるホルモンです。インクレチン関連薬は、今までの治療薬の副作用である低血糖症が起きにくく、体重増加を起こしにくいいため、今後の糖尿病治療に期待されており、当科でも使用しています。

〈医科〉診療案内

※初診受付時間／8:30～11:00 ※診療時間／8:30～17:00

※休診日／土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始(12月29日～1月3日)

※診療日の詳細について、鹿児島大学のホームページで最新の情報を紹介しております。

(<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>)

※初診の方で紹介状をお持ちでない場合は、保険外併用療養費(初診時負担金)として3,150円が必要です。

平成23年8月現在

診療センター	診療部門科	電話番号	階	初診日	再診日	初診予約制
循環器センター	心臓血管内科	5731	2	月・火・木・金	月～金	①
	心臓血管外科	5815	3	火・木	月～金(指定外来・予約制)	②
消化器センター	消化器内科	5731	2	月・木	月～金	①
	消化器外科(I)	5803	3	月・水	月・水	②
	消化器外科(II)	5815	3	火・木	火・木	②
脳・神経センター	神経内科	5731	2	水・金	月～金	②
	脳神経外科	5828	3	火・木・金	火・木・金	③
呼吸・ストレスケアセンター	呼吸器内科	5731	2	月・水・金	月・水・木・金	①
	呼吸器外科	5803	3		水	②
		5815		火・水・木	月・火・木	
心身医療科	5731	2	月・木(午前)	火・水・金(午前)	②	
腎臓・泌尿器センター	腎臓内科	5731	2	月・木・金	月・水・木・金	①
	泌尿器科	5860	3	月・金	月～金(但し水は指定外来・予約限定)	②
血液・内分泌・糖尿病センター	血液・膠原病内科	5731	2	月～金:血液内科 火・木:膠原病内科	月～金	①
	糖尿病・内分泌内科	5731	2	月～金:糖尿病内科 火・金:内分泌内科	月～金	②
	乳腺・内分泌外科	5803	3	月～金:乳腺外科 月・水:内分泌外科	月・水	②
メンタルケアセンター	神経科精神科	5776	3	月・水・木・金	月・水・木・金	①
小児診療センター	小児科	5787	2	月:神経、一般外来(術前) 火:神経、内分泌 水:循環器、アレルギー(隔週) 木:膠原病 金:血液・腫瘍、腎臓 総合外来(術前)	月～金(午前のみ)	①
	小児外科	5900	3	火・木	火・木	②
女性診療センター	産科、婦人科	5888	3	火・木	月・水・金(午前)	②
整形・運動機能センター	整形外科・リウマチ外科	5840	2	月・水(午前)	月・火(午前)・水(午後:予約制) 金(午前:予約制) 月:脊椎・腫瘍疾患 火:関節疾患 水:側弯外来 金:特殊外来	③
感覚器センター	皮膚科	5850	3	月・火・木・金	月・火・木・金	①
	眼科	5865	2	月:網膜硝子体、ぶどう膜炎、黄斑変性、角膜、神経	月:網膜硝子体、ぶどう膜炎、黄斑変性、角膜、神経	①
				火:涙道	火:黄斑変性、神経、涙道	
				水:網膜硝子体、緑内障、ぶどう膜炎、角膜、神経	水:網膜硝子体、緑内障、ぶどう膜炎、角膜、神経	
				木:黄斑変性 ロービジョン(第1・3週のみ)	木:黄斑変性 ロービジョン(第1・3週のみ)	
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	5870	3	火・木	火・木	①	
放射線診療センター	放射線科	5880	2	月～金 (部門により、外来は初診・再診どちらも曜日指定あり)	月～金	②
麻酔全身管理センター	麻酔科	5885	3	月・木・金 火(術前診察のみ)	月・木・金 火(術前診察のみ)	①

(↑ 099-275- × × × × で直接電話できます。)

初診予約の説明

予約制欄の番号の診療科	①	②	③
予約がない場合の対応	予約と紹介状のない場合は、原則として本院での受付を行わず、地域の医療機関での受診をお願いすることになります。	予約と紹介状のない場合でも、受付を行います。 (※なるべく初診予約の取得をお願いします。)	
予約の申込先	初診予約の担当部門は、地域医療連携センターになります。 予約の取得に関することは、こちらへお問い合わせ下さい。 ●TEL : 099-275-5168 ●FAX : 099-275-6698 ※紹介患者予約申込書は、本院ホームページに掲載しています。 http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/renkei/index.html		予約の取得に関することは、こちらへお問い合わせ下さい。 ●脳神経外科 TEL : 099-275-5828 ●整形外科 TEL : 099-275-5840
初診予約の方法	①初診については、地域の医療機関から本院へ、FAXにて予約の申し込みをしていただきます。 本院からは地域の医療機関への予約報告書と患者さん用の予約票を送付いたしますので、患者さんは予約票をお受取下さい。 ②患者さんは予約の日時の20分前までに、紹介状と予約票と保険証等を持参し、本院2階初診受付の窓口へお越し頂き受付し、本院での診療を受けて頂きます。		
再診予約の方法	・再診の予約の取得及び変更は、各診療科外来で行います。予約後は予約票をお受け取り下さい。 ・血液検査やレントゲン撮影が予約されたときは、来院時間等について各診療科で指示を受けて下さい。 ・心臓血管内科、消化器内科、腎臓内科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科、麻酔科、呼吸器内科、血液膠原病内科、眼科、神経科精神科は、予約のない場合は原則として本院での受付を行わず、地域の医療機関での受診をお願いすることになります。		

※「女性専用外来」、「セカンドオピニオン」も予約制です。 ◎女性専用外来：TEL 099-275-5970 ◎セカンドオピニオン：TEL 099-275-5168

静かな海底で

夏も終わり、海中に秋が深まりました。求愛やなわばり争いで慌ただしく泳ぎまわっていた魚達も、すっかり落ち着いた様子です。緑色に濁っていた海水も透視度が上がり、南の海のように青く澄んでいます。海中世界は、一年で最も静かで清々しい季節を迎えました。

沖小島南岸、浅瀬で一面に広がるサンゴ群落を散歩したあと、青い闇へと続く砂の斜面を降りていきました。普段よりずっと明るい藍色の海中を降りてゆくと、水深 48m で大きなスナインソギンチャクを見つけました。スナインソギンチャクは触手に強い毒を持っています。20 年ほど前、夜間潜水中、スナインソギンチャクに手の甲をこっぴどく刺され、今も傷跡になって残っています。こんな毒を持つスナインソギンチャクですが、小さい生きものたちにとっては格好の隠れ場所となっています。スナインソギンチャクを取り囲むように、テッポウイシモチの群れが浮遊し、触手の上には美しいハクセンアカホシカクレエビが細い足ですくくと立っています。一匹のテッポウイシモチが、ハクセンアカホシカクレエビにずっと近づきました。するとエビは、ふわりと舞い上がり、イシモチの背中に降りたちました。そしてか細い足でイシモチの背中や鱗を掃除し始めました。気持ちがいいのでしょうか、イシモチの口は大きく開かれました。

静かな海底では、小さな生きものたちのひそやかな暮らしが営まれていました。



テッポウイシモチをクリーニングするハクセンアカホシカクレエビ。エビは古くなった皮膚や寄生虫を食べる。

TOPICS

病院 再開発

現在の建物は築後30年以上が経過しているため、病院内施設の充実、患者さんの療養環境改善を目的に、平成19年度から建物の増築・改修を行っています。ご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願いします。

新病棟の平面プランをご紹介します

今回は新病棟の平面プランをご紹介します。新病棟の最大の特徴は、病室やデイルームからの眺望です。北側には霧島、東側には桜島、南側には錦江湾から開聞岳を望むことができるので、患者さんの回復の一助になってくれることと思います。また、従来の病棟に比べて、個室やトイレが数多く整備されるので、患者さんにとって、より過ごしやすい環境になります。



広報誌編集部会からのお知らせ

鹿児島大学病院の診療内容、病気について的一般知識など知りたいことがありましたら、お知らせください。
また、「桜ヶ丘だより」への皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしております。

鹿児島大学病院広報誌 桜ヶ丘だより〈23号〉

2011(平成23)年10月発行

発行/鹿児島大学医学部・歯学部附属病院広報委員会広報誌編集部会

〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号 TEL 099-275-6692

【鹿児島大学病院ホームページアドレス】

<http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/>